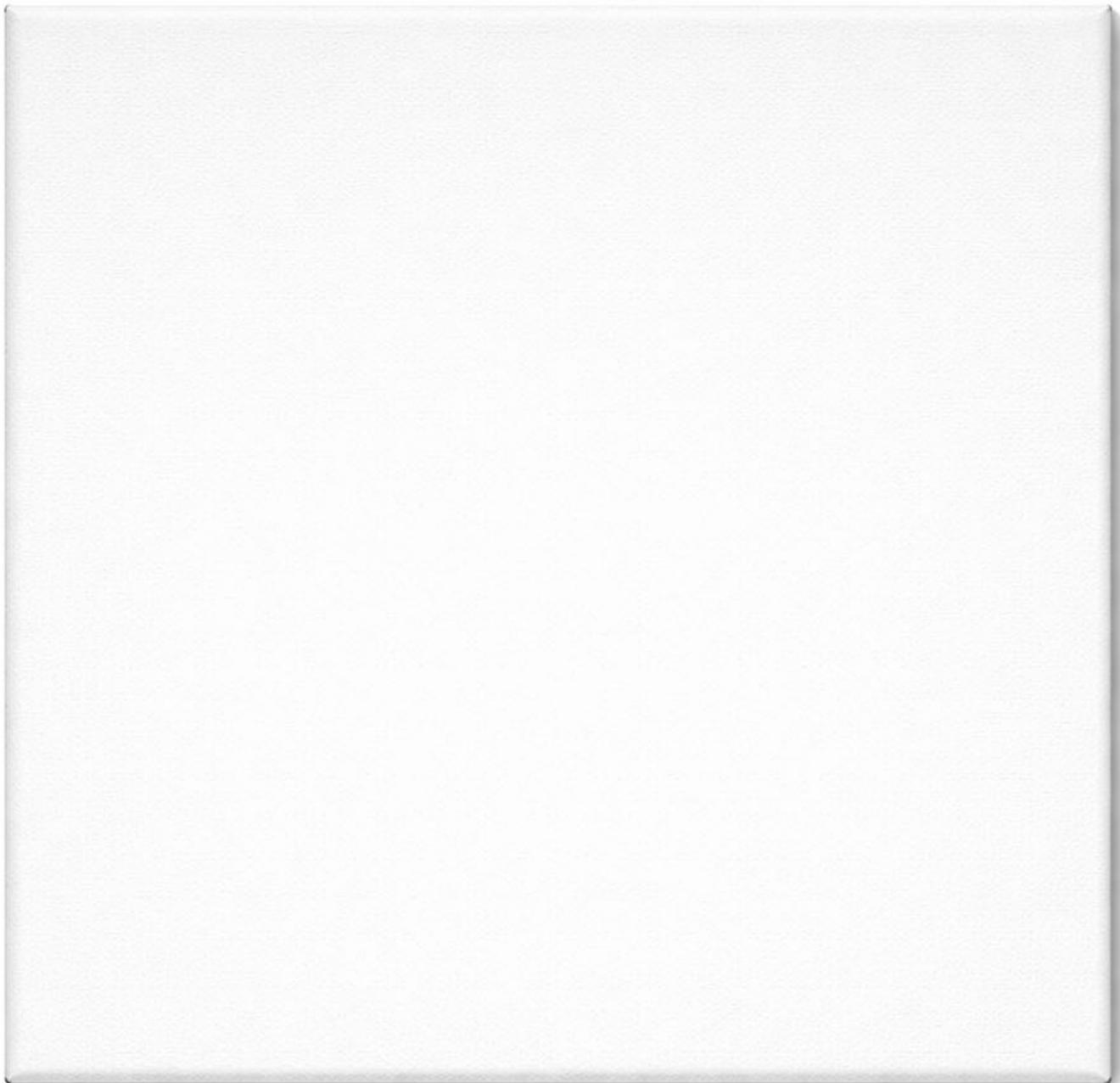


北海道大学 医学部 形成外科
同門会・教室年報 2025

ANNUAL REPORT 2025

Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Faculty of Medicine, The University of Hokkaido at Sapporo



北海道大学 医学部 形成外科

同門会・教室年報 2025

ANNUAL REPORT 2025



同門会忘年会 (2025年12月13日 於 京王プラザホテル札幌)

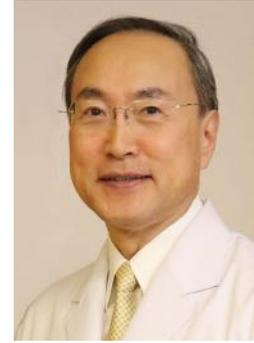


教室員（2025年12月22日 於 医学部学友会館「フラテ」）

同門会会長挨拶

野平 久仁彦

北海道大学医学部形成外科同門会 会長
医療法人社団 蘇春堂形成外科 理事長



2025年は北大で形成外科の診療が開始されてから60年目の年です。私がまだ小学6年生だった頃ですから、そのときの時代感を考えますと本当にスタートが早かったのだと思います。初代教授の大浦先生をはじめ創設メンバーの先生にはいつも感謝の念が絶えません。われわれは入局当初から形成外科医として修行をはじめることができました。しかし創設がもっと後の他大学に入局した先生の話を知ると、最初は皮膚科や整形外科からスタートしなければならなかったという苦労話を多く聞いたことがあります。形成外科の講義を聞いてそれに感銘して入局した身としては、とても幸せなタイミングだったとつくづく思います。その歴史ある北大形成外科同門会の会長を仰せつかり6年が経ちましたが、新しい教授が決まるこの時期に心機一転、佐々木了先生に会長職を交代することになりました。皆様、長い間ありがとうございました。

さて今年9月1日、青森新都市病院形成外科部長であった藤井暁先生が急逝されました。まだ61歳という若さで、彼としてもとても無念だったと思います。心からご冥福をお祈りいたします。

話は変わりますが、書き留めておきたいことがありますのでここで少し述べさせていただきます。2025年10月31日に富山市で開かれた日本オンコプラスチックサージャリー学会で、「乳房再建のレジェンドから学ぶ」という教育講演で発表した内容です。演題は「米国で経験したfree TRAM flapによる乳房再建の幕開け」です。

私は1987年に米国アラバマ大学形成外科に留学しました。そのとき教授のVasconez先生は有茎腹直筋皮弁による乳房再建を盛んに行っていました。私と同世代の助教授のJim Grottingは、マイクロサージャリーの父と言われたHarry Bunkeのところでフェローを終わったばかりのmicrosurgeonでした。私は留学前にfree flapを100例以上行っていましたので、Vasconez先生にマイクロの時はJimを手伝ってくれと頼まれていました。当時私はニューヨーク大学のBill Showがfree TRAM flapで乳房再建をしているという情報を得ていましたので、Jimにこれからの乳房再建はすべてfree TRAMでやろうと提案しました。最初の症例はASD手術後で胸骨正中切開痕のある患者で、有茎でやるにはリスクが高い症例でした。そのときからfree TRAMプロジェクトがスタートしました。それから2年経った1989年にJimがこれらの症例をまとめてPRSに、有茎と遊離TRAM flapによる即時乳房再建の比較、という論文を出しました。Free TRAM flapによる即時乳房再建は世界で初めての報告でした。一躍彼は時の人となり、その後開業して美容外科医として名を馳せることになります。

30年の時は経ち、2017年にJimが大阪で開かれた日本形成外科学会でISAPSの講師として日本に来ました。その前に札幌に寄ってくれて、久しぶりに歓談しました。

その時、最初のfree TRAMによる乳房再建についての話ができました。ところが、これから全ての症例をfree TRAMでやろうと提案したのは私だったことを忘れていたようです。

しばらく経ってからJimから以下のメールが来ました。



「喜心」で無濾過生原酒を楽しむ

Kuni—I hope this message finds you and your family happy and healthy despite the pandemic and chaos in the world. I appreciate you mentioning to me when I visited you the last time that my memory of our first free TRAM case together in 1987 (a few slides below) was not accurate and I wanted to set the record straight with you. I now remember that it was your suggestion that we transfer the flap as a free flap which was scheduled as a conventional TRAM. I was open to the idea as I had heard Bill Shaw mention the technique at the American Society of Reconstructive Microsurgery meeting earlier in the year. I don't think either of us were aware that Hans Holmström and Roger Friedman had published case reports earlier. I agreed to try it because I was so confident in YOUR abilities in microsurgery and that we could do it safely together. Without you it probably wouldn't have happened that day.

I am mentioning the case coming up in a presentation at the American Association of Plastic Surgeons in San Diego in early April and will mention your name as a key contributor to that sentinel case. I regret that your name was never included as an author on the 1989 manuscript in PRS. I just wanted you to know that as I tried to remember the events of that day, I can now recollect the facts as they happened. I hope that my failure to acknowledge the important role you played when I was last in Japan will not affect our friendship as I know that my great admiration and appreciation for you as a person and a plastic surgeon will never diminish.

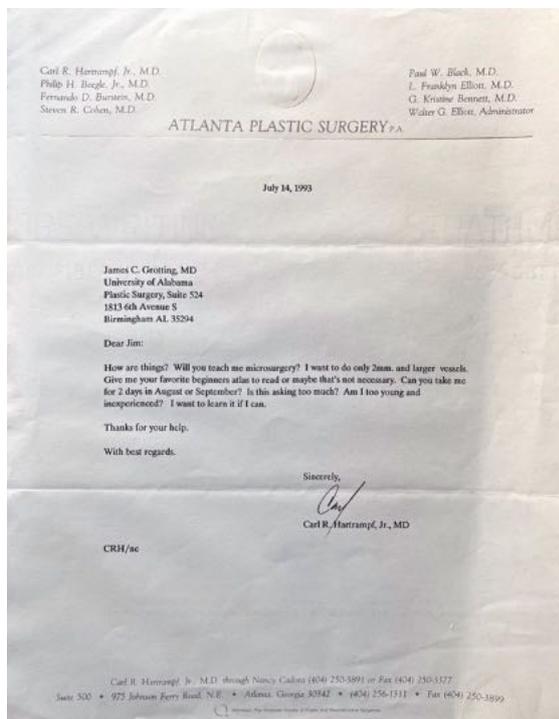
Warmest personal regards,
Jim



図：1987年にJimと一緒に行った左乳癌のfree TRAM flapによる即時再建の世界初の症例。術後16年目の経過も良好です。

2024年にまたメールが来ました。

Kuni—I may have told you that I retired as of the end of 2024. In cleaning out my office, I found a letter that I thought you might enjoy seeing! Dr. Hartrampf was such a major supporter of our work and always knew that the free TRAM was a better solution than the pedicle TRAM! Hope all is well with you! Hugs, Jim



Kuniへ

世界がパンデミックと混乱の中にある今でも、あなたとご家族が元気で幸せに過ごしておられることを願っています。前回あなたを訪ねた際、1987年に一緒に行った最初のfree TRAM症例（下に数枚スライドがあります）について、私の記憶が正確ではなかったとあなたが指摘してくれたことに感謝しています。その後あらためて当時のことを思い返し、事実をきちんと整理しておきたいと思いました。今でははっきり思い出しますが、もともと通常の有茎TRAMとして予定されていた症例を、遊離皮弁として移植しようと提案したのはあなたでした。私はその年の初めに、American Society of Reconstructive Microsurgeryの学会でBill Shawがこの手技に言及しているのを聞いていたので、その考えに前向きでした。当時、Hans HolmströmやRoger Friedmanがすでに症例報告を発表していたことは、私たちのどちらもまだ認識していなかったと思います。私がおその方法を試してみようと決断できたのは、あなたのマイクロサージャリーの技量を心から信頼していたからであり、一緒なら安全に行えると確信していたからです。あなたがいなければ、あの日その手術が行われることはおそらくなかったでしょう。

この症例については、4月初旬にサンディエゴで開催される American Association of Plastic Surgeonsの発表で触れる予定で、その際には、この画期的な症例における重要な貢献者としてあなたのお名前を紹介するつもりです。また、1989年にPRSに掲載された論文にあなたのお名前が著者として含まれていなかったことを、今になってとても残念に思っています。あの日の出来事を思い返す中で、事実を正しく思い出すことができたので、あなたにお伝えしたかったのです。前回日本を訪れた際に、あなたの果たした重要な役割について十分に言及できなかったことが、私たちの友情に影響することがないよう願っています。あなたという人間、そして形成外科医としてのあなたへの深い敬意と感謝の気持ちは、今後も決して変わることはありません。

心からの敬意と親愛の気持ちを込めて
Jim

Kuniへ

すでにお話ししたかもしれませんが、私は2024年末をもって引退しました。オフィスの片付けをしているときに、あなたにもきっと喜んでもらえると思う手紙を見つけました。Hartrampf先生は、私たちの仕事を強く支持してくださっていた方で、遊離TRAMのほうが有茎TRAMより優れた方法だということに常に理解しておられました。あなたのほうもお元気で過ごしのことと思います。ハグを込めて Jim

Hartrampf先生からJimへの手紙（左図）

Jim お元気ですか？ 私にマイクロサージャリーを教えていただけますか？私は2mm以上の血管だけを扱いたいと思っています。初心者向けのあなたのお気に入りのアトラスを教えてください。あるいは、それは必ずしも必要ないでしょうか。8月か9月に2日間、私を受け入れていただくことは可能でしょうか？これはお願いしすぎでしょうか？私は若すぎて経験不足でしょうか？もしあなたが可能であれば、ぜひ学びたいのです。

Carl

これはHartrampf先生が61歳の時の手紙です。有茎TRAM flapの乳房再建で一時代を築いた人が、実はfree TRAMをやりたいかっただということを知って頭が下がりました。Hartrampf先生は2019年に87歳で亡くなりましたが、残しておきたい歴史の裏側のエピソードです。

Jimが2026年3月にISAPSのスキークラブの連中とニセコに来るといっているので、一緒に滑ってこようと思います。

目次

巻頭言

同門会会長挨拶／野平久仁彦 [i]

沿革 001

歴代教授 歴代同門会会長 歴代教室輩出教授 002

教員スタッフ 002

主な主催全国学会 003

同門だより 004

ご挨拶／新冨芳尚 005

継承～教室と同門会／山本有平 006

定年ですね／川嶋邦裕 007

悲喜こもごも／村住昌彦 008

2025年を振り返って／関堂 充 009

Welcome to “FACEs 2027” in Fukushima

その2／小山明彦 010

御礼と祈り2025／古川洋志 011

制御性T細胞と三年寝太郎

～第23回日本形成外科学会基礎学術集会シンポジウムより～

／村尾尚規 012

自分の道／大野健太郎 015

三島由紀夫 生誕100年／本田 進 016

医師としての20年間／前田 拓 018

論文執筆における大規模言語モデルの活用／石川耕資 019

一周回って新しい働き方へ／高橋周子 021

世界一流はやはり一流なり。／三浦隆洋 022

師匠が紡ぐ、指先から／草島英梨香 023

形づくる、ということ／星野善允 025

弾いてみた、始めてみた／佐々木雄輝 026

‘境界’に対する考察／徐 東経 027

ワインから日本酒へ、

そしてまたワインへ／三田村真太郎 028

北海道10年目の冬に思うこと／市村祐人 029

振り返りと抱負／荒川皓城 030

北見へ。／岡崎達哉 031

産まれました／岸部真由子 032

新入教室員挨拶／植田日向子・西東明雄 033

末永裕己・高野伊織 034

藤井 暁先生追悼文集

藤井 暁先生追悼文／村住昌彦 035

マテオちゃん、またね／小山明彦 036

追悼：藤井 暁先生／堤田 新 037

藤井 暁先生を偲んで／堀内勝己 038

藤井 暁先生を偲んで／舟山恵美 039

藤井 暁先生を偲んで／大谷秀和 041

藤井 暁先生との2年間／藤 雄大 042

藤井 暁先生を偲んで／渡邊亜希子 043

年譜 044

教室年譜2025 045

第31回日本熱傷学会北海道地方会 046

学位・専門医取得祝賀会 046

医学研究院・医学院・医学部医学科

令和6年度 最終講義・退職記念式典 047

山本有平教授退任記念祝賀会 048

スタートアップ イブニング 051

形成外科研修説明会 051

教育研修施設会議2025 051

同門会総会・忘年会 052

教室仕事納め会 053

教室年間活動 研究 054

北大形成外科カンファレンス 055

Manifesto 2025 059

業績一覧 061

UHS English Literature PDF Library 065

参加学会一覧 067

学位取得者および学位論文の要旨／石井 陸 071

／佐々木雄輝 073

大学院生研究室だより 075

北海道大学博士学位取得者一覧 076

研究費採択状況一覧 077

北成賞 079

教室年間活動 教育 080	教育研修施設（常勤）／蘇春堂形成外科 114
講義・試験 081	（非常勤）／桑園中央病院 115
臨床実習 081	天使病院 116
臨床実習口演一覧 083	愛全病院 116
北海道大学医学部医学科交換留学プログラム 085	千歳皮膚科形成外科クリニック 117
北海道大学形成外科専門研修プログラム 086	北海道せき損センター 117
日本形成外科学会専門医取得者～10症例・論文 088	岩見沢市立総合病院 118
北大形成外科アカデミー 089	苫小牧市立病院 118
形成外科領域指導医・特定分野指導医・	釧路労災病院 119
分野指導医取得者一覧 093	青森新都市病院 119
	他形成外科専門研修プログラム 相互連携施設
教室年間活動 診療 094	愛知医科大学病院 120
北海道大学形成外科専門研修プログラム施設群 095	旭川医科大学病院 123
専門研修基幹施設／北海道大学病院 096	
専門研修連携施設／市立札幌病院 098	教室年間活動 レクリエーション 124
カレス記念病院 100	The Party 2025 125
斗南病院 101	ゴルフコンペ“北大形成外科THE OPEN” 2025 126
手稲溪仁会病院 103	リレーマラソン in 札幌ドーム 2025 127
北海道がんセンター 104	
苫小牧日翔病院 105	その他・一覧 128
函館中央病院 106	同門会構成員・教室スタッフ 129
市立函館病院 108	客員研究員・非常勤講師・客員臨床教授 130
日鋼記念病院 108	A会員勤務施設一覧 131
旭川厚生病院 109	外国人連絡会員・名誉会員勤務施設一覧・物故会員 132
森山病院 110	教育研修施設一覧 133
帯広厚生病院 111	学会・機構役員・委員一覧 134
北見赤十字病院 112	同門会規約・教室総則 135
市立釧路総合病院 113	

北海道大学医学部形成外科学教室：北大形成外科の歴史は、初代教授、現北海道大学名誉教授である大浦武彦に始まる。大浦は、当時日本で唯一の形成外科診療科があった東京警察病院の故大森清一先生のもとで形成外科を研修した後、1965（昭和40）年4月に北海道大学医学部皮膚科学教室三浦祐晶教授のご配慮により形成外科診療班をつくり、医学部附属病院皮膚科で形成外科の診療を開始した。

1978（昭和53）年6月には、その後の積極的な診療活動および当時の文部省、大蔵省への働きかけにより、北海道大学医学部附属病院に形成外科診療科が新設され、大浦が北海道大学医学部形成外科初代教授に選任された。教室定員は5であった。

1985（昭和60）年5月には、北海道大学医学部形成外科同門会が設立され、初代会長には浜本淳二が選出された。

1987（昭和62）年4月には、北海道大学医学部附属病院形成外科における臨床・研究両面にわたる実績が認められ、北海道大学医学部に形成外科学講座が新設された。

1995（平成7）年9月には、杉原平樹が第2代教授に就任し、同年12月より、新富芳尚が第2代同門会会長となった。

2005（平成17）年4月には、山本有平が第3代教授に就任した。

2007（平成19）年12月より、吉田哲憲が第3代同門会会長となった。

2008（平成20）年7月には、関堂 充が筑波大学形成外科教授に割愛された。

2017（平成29）年12月には、小山明彦が福島県立医科大学形成外科教授に割愛された。

2018（平成30）年4月には、古川洋志が愛知医科大学形成外科特任教授に割愛され、

2019（平成31）年4月に、愛知医科大学形成外科教授に就任した。

同年12月より、野平久仁彦が第4代同門会会長となった。

2021（令和3）年1月には、林 利彦が旭川医科大学形成外科教授に割愛された。

2025（令和7）年12月より、佐々木了が第5代同門会会長となった。

この間、北海道大学医学部形成外科は同門ならびに教室員と共に、さらなる飛翔を遂げ続けている。

教室創立年月日：1965（昭和40）年4月1日

歴代教授



初代教授 大浦武彦
(1931年-)
在任 1978年6月16日～1995年3月31日



第2代教授 杉原平樹
(1941年-2020年)
在任 1995年9月1日～2005年3月31日



第3代教授 山本有平
(1959年-)
在任 2005年4月1日～2025年3月31日

歴代同門会会長



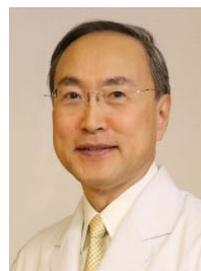
初代会長 浜本淳二
(1932年-2009年)
在任 1985年5月1日～
1995年11月30日



第2代会長 新富芳尚
(1943年-)
在任 1995年12月1日～
2007年11月30日



第3代会長 吉田哲憲
(1946年-)
在任 2007年12月1日～
2019年12月14日



第4代会長 野平久仁彦
(1953年-)
在任 2019年12月15日～
2025年12月13日



第5代会長 佐々木了
(1961年-)
在任 2025年12月14日～

歴代教室輩出教授



筑波大学 医学医療系 形成外科
教授 関堂 充
(1962年-)
在任 2008年7月1日～



福島県立医科大学 形成外科学講座
主任教授 小山明彦
(1966年-)
在任 2017年12月1日～



愛知医科大学 形成外科学講座
主任教授 古川洋志
(1966年-)
在任 2019年4月1日～



旭川医科大学 形成・再建外科学講座
教授 林 利彦
(1964年-)
在任 2021年1月1日～

北海道大学大学院医学研究院形成外科学教室 教員スタッフ

准教授・診療教授
講師・診療准教授
助教・診療講師
助教

舟山恵美
前田 拓
石川耕資
三浦隆洋

2025年12月31日現在

主な主催全国学会

1980年

第1回国際熱傷学会アジア太平洋地区会議 (会長：大浦武彦)
第6回日本熱傷学会総会 (会長：大浦武彦)

1986年

第29回日本形成外科学会学術集会 (会長：大浦武彦)

1990年

第8回日本臨床皮膚外科学会学術大会 (会長：松本敏明)

1991年

第14回日本美容外科学会総会・第54回学術集会 (会長：大浦武彦)
第3回国際ティッシュエキスパンションシンポジウム (会長：大浦武彦)

1993年

第11回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (会長：大浦武彦)

1995年

第22回日本マイクロサージャリー学会 (会長：新富芳尚)

1998年

第16回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (会長：杉原平樹)

2000年

第43回日本形成外科学会総会・学術集会 (会長：杉原平樹)

2004年

第7回日韓国際形成外科学会 (会長：杉原平樹)
第6回日本褥瘡学会学術集会 (会長：大浦武彦)

2007年

第30回日本美容外科学会総会・第100回学術集会 (会長：新富芳尚)

2009年

日本下肢救済・足病学会創立学術集会 (会長：大浦武彦)

2011年

第3回日本創傷外科学会総会・学術集会 (会長：山本有平)

2012年

第28回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (会長：山本有平)

2014年

第32回日本臨床皮膚外科学会学術大会 (会長：木村 中)

2015年

第3回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会 (会長：山本有平)

2017年

第40回日本美容外科学会総会・第130回学術集会 (会長：野平久仁彦)

2018年

第36回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (会長：山本有平)

2019年

第62回日本形成外科学会総会・学術集会 (会長：山本有平)

2021年

第48回日本マイクロサージャリー学会学術集会 (会長：関堂 充)

2022年

第45回日本美容外科学会総会・第145回学術集会 (会長：山本有平)
第40回日本臨床皮膚外科学会総会・学術大会 (会長：南本俊之)

2023年

第11回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会 (会長：関堂 充)
第19回日本血管腫血管奇形学会学術集会 (会長：古川洋志)

2024年

第48回日本リンパ学会総会 (会長：河合佳子)

2027年

～予定
第43回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (会長：古川洋志)
第15回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会 (会長：森 弘樹)
第36回日本形成外科学会基礎学術集会 (会長：関堂 充)
第45回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (会長：小山明彦)